

令和5年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立津幡高等学校

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
1 基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）	① 挨拶運動に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート （保護者）96%	生徒指導課 コロナ禍の影響も薄らぎ、声を出して挨拶しやすい状況となったためかコロナ禍以前より良い数字となっている。これを維持できるよう取り組んでいきたい。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート （生徒）94%	生徒指導課 服装容疑・頭髪に関してはブラック校則の問題もあり規定を緩和していく過渡期にある。生徒・保護者の理解を得ながら、納得のいく規定に移行していくことが重要である。情報交換を密にとり移行していくように努めたい。そのようななかにおいてもマナーとして身だしなみを整える意識は持つように指導していきたい。
	③ 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数が過去5年間の平均値と比べて、変化率が A 10%以上の減少である。 B 10%未満の減少である。 C 10%未満の増加である。 D 10%以上の増加である。	D 7月時点で過去5年間の平均値より62%（167件）の増加 *H30～R4の平均	生徒指導課 コロナ禍、校則緩和の流れ、厳しい指導に対する問題視など生徒に対する指導が緩やかにならざるを得ない状況や不登校傾向の生徒には無理させない指導の状況などから遅刻・欠席数が増加しているのではないかな。今後も生徒の様子を見ながら声掛けをしていきたい。
	④ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	積極的に校内清掃や教室内の整理整頓に努めた生徒が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	C 7月の教育活動に関するアンケート （生徒）89%	保健環境課 昨年度87%と若干ではあるが、生徒の環境美化に対する意識は高まっている。引き続きクリーンウィークや清掃点検などを通して、校内美化の意識を高めていきたい。
	⑤ 生徒の良好な人間関係づくりを支援して、いじめ等を防止し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が A 80%である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート （生徒）87%	教育相談課 年度当初は人間関係に不安を感じている生徒が多く見られたので、それをできるだけ解消できるようにスクールカウンセラー等による面談を行ってきた。今後は、生徒が不安なく生活できるように、生徒の様子を見守り、声かけを更に行っていききたい。
学校関係者評価委員会の評価		・遅刻・欠席に関して精神的な理由の場合は相談室の対応が必要になってくるのではないかな。生徒に寄り添い、保護者とも連携を取りながら育てていって欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・休みがちな生徒の情報は相談室、担任などと情報を共有して、個に応じた対応をしていきたい。生活習慣の乱れによる欠席・遅刻は確実に指導していく。		

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
2 授業の工夫・改善と生徒の進路の実現。（わかる授業の実践、GIGA スクール構想の推進、体力の増進、生徒の進路意識の向上）	① 教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、わかりやすい授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	A 7月による授業評価で肯定的評価 90.2%	教務課 教員が生徒の実態に合わせて興味関心を喚起させる授業改善に取り組んだ点や、習熟度に合わせて難易度を調整した点、またICT機器の積極的な活用による授業改善の結果が高い評価につながったと考える。
	② GIGAスクール構想の推進を図る。	1日6時間（火曜のみ7時間）の授業、ホームルーム等での活動にクロムブックを2回以上活用している。 A 80%以上である。 B 70%以上である C 60%以上である。 D 60%未満である。	D 7月の教育活動に関するアンケート（生徒） 47%	教務課 一人一台端末の授業での活用を研究するとともに、ホームルーム活動等にどのような場面で活用できるか検討を進めていきたい。
	③ 生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	B スポーツテストの結果 76%	体育管理課 前回61%との比較から、2年男子44%、女子9%、3年男子18%、女子5%と76%の生徒が自己記録を超えている。コロナ渦での運動制限が軽減され、通常に近い形での授業、部活動が行えるようになったことが要因である。
	④ 一人一人の生徒に対してしっかりとした進路指導を行い、確実な進路希望の実現を図る。	進路内定・決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	—	進路課 最終集計で判断する。
学校関係者評価委員会の評価		・「学ぶ意欲」が大切だと考える。探究活動はどのように行っているのか。 ・就職した生徒の1、2年後の定着率はどれくらいか。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・探究活動は「総合的な探究の時間」で教員がテーマ設定をし、生徒がそれに沿う形で展開している。スポーツ健康科学科の卒業研究でも取り組んでいる。 ・就職した生徒については採用された5月に企業を訪問し様子を聞いている。電話での聞き取りも行っている。早期離職を防ぐためにも応募前見学を行い、ミスマッチが起きないように努めていきたい。		

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 部活動の計画的な実施による効率的・効果的な競技力向上と生徒会活動の活性化。（全国大会での上位入賞、ボランティア活動の推進、情報発信）	① 県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングや実技指導を行う。	全国大会に出場した部活動が A 8部以上である。 B 6部以上である。 C 5部である。 D 5部未満である。	C 全国高校総体等に5部出場（男女柔道、ウエイトリフティング、ボート、射撃部）	体育管理課 昨年度と同様、5競技がインターハイ等の全国大会への出場を決めた。今後行われる全国選抜大会や選手権大会への出場を期待している。中学校部活動から高校部活動への環境の変化に順応できるよう、個々に応じたきめ細かな指導が必要になっている。
	② 部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 83%	体育管理課 コロナの影響は少なくなったが、大雨や高温による熱中症予防のため、予定通りの活動とはいかない場面があった。各部練習体制の見直し等により、計画的に実行できるよう創意工夫して、効率の良い指導で競技力の向上を図りたい。
	③ 生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 82%	生徒会課 前期の報告会や壮行式など生徒主体の生徒会活動となるように課題を持って取り組んできたので、この結果は良かったと思う。後期も文化祭・体育祭など生徒主体の活動が多くあるので、前期以上に意識して取り組んでいきたい。
	④ 様々なボランティア活動に参加する生徒を増やし、社会経験を豊かにし、他者と協働する意識を高める。	様々なボランティア活動に参加したと答える生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 50%	生徒会課 本校は生徒会主催のボランティア活動が活発であるにもかかわらず、昨年度に比べてポイントが低くなってしまった。2学期以降は、生徒自身がボランティアをしたという実感を持てるようにするとともに、担任を中心に教員側もそのような声掛けができるように発信していきたい。
	⑤ 学校通信（校内、地域）の発行やHP・学校メール配信により部活動や生徒会活動の様子などをきめ細かく発信する。	学校のHPや学校メールの発信に満足している保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート (保護者) 86%	総務課 満足している割合が85%を超えた。今後も継続した取り組みの中で、ホームページや学校通信また部活動の結果等で、常に新しい情報発信ができるように努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・7月の大雨で津幡町は大きな被害があった。部活動でボランティア活動をおこなってもらい大変助かった。ぜひ、今後も地元に貢献して欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・今後もさまざまな活動を通し、地域に貢献していきたい。		

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4 教職員の時間外勤務の削減による教育活動の充実。（効率的な業務の推進）	① 教職員のワークライフバランスの実現に向けて、校務の効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。	月８０時間以上の時間外勤務のある職員の延べ人数が A ０人である。 B（月数×１人）以下である。 C（月数×２人）以下である。 D Cを上回る。	D 7月までの４ヶ月で時間外勤務時間８０時間を超える人数が 11人	昨年度同時期の集計より５人減少であった。しかし延べ人数11人のうち部活動指導で固定されている教員もみられる。効率よく練習を計画しつつ強化育成につながるよう取り組んでいきたい。
		（全教員）タイムマネジメントや業務の効率的な推進を意識した働き方をしていると答えた教職員の割合が A ８０％以上である。 B ７０％以上である。 C ６０％以上である。 D ６０％未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート（教職員） 77％	多くの職員が仕事の効率化を意識していることが数値からうかがえる。今後も ICT の活用や各課、学年での業務の割り振りなどを工夫して効率化に努めていきたい。意識した働き方が時間外勤務の減少に繋がるように取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・部活動指導もあるが、時間管理も含め仕事の効率化を図って欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・職員の働き方改革として、ペーパーレス化を図っている。また、ICTの活用などでできるところから取り組んでいきたい。		